



日本建築家協会 会長 芦原 太郎

昨年は経済も少し上向きになり、2020年に東京オリンピック開催が決まるなど明るい兆しが見えてきました。  
高度成長の時代のようにバラ色の未来を信じていることは難しいとしても、私達建築家は将来ビジョンのもとに専門家として安心・安全で持続可能な環境、人々が生き生きと

環境づくりにむけて一つ一つの地道な努力を積み上げて行く事が大切です。2020年の東京オリンピックを契機にして成熟社会の建築・まちづくりのあり方を示しながら建築・まちづくりを推進してまいります。  
〈建築の公共性〉  
建築は地域の環境を構成する大切な要素であり、社会性・公共性を持つ環境資産と言えます。建築関連5団体の建築・まちづくり宣言には謳われている以下の3つの環境、人々が生き生きと

くらせる安全・安心な生活環境、生産・経済活動を支える持続可能な社会環境、地域固有性を継承する豊かな文化環境のすべてに建築は密接に関わっています。  
この公共的価値の実現が公益社団法人としてのJIAの目指すところであり、会員総力をあげて、会員総力を上げて、具体的に公益活動を実践していくことで社会にとっても魅力的なJIAとAになることを目指しています。  
建築への志を共にする仲間との活動や交流を通して、プロフェッションの本質を学び継承していくとともに、新会員制度による学生会員やジュニア会員など若い会員を建築家に育てながら、会員にとっても魅力的なJIAとAになることを目指しています。

### 魅力的なJIAを目指す

理事長ケンケン 日本建築家協会会長 芦原 太郎

私たち建築家は、専門家として安心・安全で持続可能な環境づくりに向けて一つひとつ地道な努力を積み上げていくことが大切です。2020年の東京オリンピックを契機にして、成熟社会の建築・まちづくりのあり方を示しながら建築・まちづくりを推進してまいります。

建築は地域の環境を構成する大切な要素であり、社会性・公共性をもった環境資産と見えます。建築関連5団体の建築・まちづくり宣言に謳われている3つの「環境」に建築は密接にかかわり、その「環境」を価値あるものとするのに貢献していきます。このことを目指しています。



建築は地域の環境を構成する大切な要素であり、社会性・公共性をもった環境資産と見えます。建築関連5団体の建築・まちづくり宣言に謳われている3つの「環境」に建築は密接にかかわり、その「環境」を価値あるものとするのに貢献していきます。このことを目指しています。

### 建築3会の新年交礼会 団体連携の必要強調

日本建築学会（吉野博会長）、日本建築家協会（芦原太郎会長）、東京建築士会

（中村勉会長）は6日、東京都港区の建築会館で「2014年新年交礼会（叙勲者・褒章受章者・功労者祝賀会）」を開いた。



冒頭、建築学会の吉野会長が「震災復興、気象災害、国際交流推進の3点について学会として取り組んでいきたい」と年頭祝辞を述べた。このうち気象災害については、「新たに特別調査委員会を設置し、ガイドラインを策定し

ていきたい」とした。また東京建築士会の中村会長も、「昨年、土法改正へ各団体が連携して大きな流れをつくった」と団体連携の成果を強調。昨年春の叙勲で瑞宝中綬章を受章した中村恒善京大名誉教授が、「今後、これまで以上にグローバル展開をしなければならぬと確信している」と受賞者を代表してあいさつした。

3会会長による鏡割り。写真の後、芦原日本建築家協会会長が乾杯の音頭に立ち、「目先で問題はあっても、世のため人のため長期的な視点で取り組んでいくことが必要だ」と訴えた。